

令和元年度 決算報告書

国立大学法人筑波技術大学

(単位:百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算-予算)	備考
収入				
運営費交付金	2,426	2,442	16	(注1)
施設整備費補助金	407	407	△0	
船舶建造費補助金	—	—	—	
補助金等収入	—	—	—	
大学改革支援・学位授与機構施設費 交付金	15	15	0	
自己収入	385	382	△3	
授業料、入学科及び検定料収入	212	200	△12	(注2)
附属診療所収入	123	126	3	(注3)
財産処分収入	—	—	—	
雑収入	50	57	7	(注4)
産学連携等研究収入及び寄附金 収入等	41	55	14	(注5)
引当金取崩	—	3	3	(注6)
長期借入金収入	—	—	—	
貸付回収金	—	—	—	
目的積立金取崩	8	—	△8	(注7)
計	3,282	3,305	23	
支出				
業務費	2,818	2,747	△71	
教育研究経費	2,581	2,531	△50	(注8)
診療経費	237	216	△21	(注9)
施設整備費	422	422	△0	
船舶建造費	—	—	—	
補助金等	—	—	—	
産学連携等研究経費及び寄附金 事業費等	41	37	△4	(注10)
貸付金	—	—	—	
長期借入金償還金	1	1	0	
大学改革支援・学位授与機構施設費 納付金	—	—	—	
計	3,282	3,207	△75	
収入-支出	0	98	98	

○予算と決算の差異について

- (注1) 運営費交付金については、特殊要因運営費交付金のうち年俸制導入促進費、退職手当の追加配分があったことにより、予算額に比して16百万円増となっています。
- (注2) 自己収入のうち授業料、入学料及び検定料収入については、受験者数、入学者数ともに見込より減となったため、予算額に比して12百万円の収入減となっています。
- (注3) 自己収入のうち附属診療所収入については、患者数が昨年比に7.2%増加したことにより、予算額に比して3百万円増となっています。
- (注4) 自己収入のうち雑収入については、間接経費収入が当初の見込より増加したことに伴い、7百万円の増となっております。
- (注5) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、当初の見込み以上の奨学寄附金収入があったことにより、予算額に比して14百万円増となっています。
- (注6) 引当金取崩については、退職に伴う取崩があったため、3百万円の増となっております。
- (注7) 目的積立金取崩については、教育研究活動への支出に充てる予定でしたが、他の財源を充当したため差額が生じております。
- (注8) 業務費のうち教育研究経費は、主として教職員の不補充に伴い、予算額に比して50百万円の減となっております。
- (注9) 業務費のうち診療経費は、主として教員の不補充に伴い、予算額に比して21百万円の減となっています。
- (注10) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、主にコロナウイルス感染症に伴い予定していた事業が実施できなかったことにより、予算額に比して4百万円の減となっています。